

阿佐谷七夕まつり

ナビゲータ

- ・加賀なつみ[1～4ページ執筆] ―2006年4月24日掲載―
- ・藤山三波[5～9執筆] ―2006年4月24日掲載―

発 端	レジャーの少なかった時代に、商店街から子どもたちに夏休みの思い出をプレゼントしようということで始まった。 
特 徴	商店街主催の、手作りイベント。
規 模	JR阿佐ヶ谷駅から東京メトロ南阿佐ヶ谷まで続くパールセンターを中心とする南口商店街全域。
開催時期	基本的に8月5から8月9日の5日間。
主催者／問い合わせ先	阿佐谷商店街振興組合(通称、阿佐谷パールセンター) TEL: 03-3312-6181
最寄り駅	JR阿佐ヶ谷駅、東京メトロ丸の内線南阿佐ヶ谷駅
参加の方法	期間中にパールセンターを歩けば自動的に祭りに参加したことになるが、張りぼての出展希望の方にはに関しては七夕祭りの最終ページを参照。そのほか、関連イベントもある。
参考サイト・書籍	杉並区公式サイトでの紹介 http://www2.city.suginami.tokyo.jp/gallery/event/gallery02.asp 商店街は元気が一番 http://www.syoutengai.or.jp/genki/tokyo/347/index.htm 『阿佐谷七夕まつり 50周年特別記念誌』阿佐谷商店街振興組合阿佐谷七夕まつり実行委員会発行
すぎなみ学倶楽部 関連サイト	イラストで楽しめます！ 「イベントとらの穴」↓第52回(2005年)阿佐谷七夕祭紹介 http://www.suginamigaku.org/event/ev0509_1.html 



なぜか行きたくなる、阿佐谷七夕まつりの魅力

七夕の飾りつけがされ、模擬店が並んでいるだけ。これといったメインイベントもないのに、なぜか足が向いてしまう阿佐谷七夕まつり。いったいなにが心を惹きつけるのか？ 阿佐谷七夕の魅力をさぐってみましょう。

■なんといっても手作りがウリ



手作りハンバーグ、手作りコロッケ、手作りギョーザなどなど、手作りというだけで、おもしろい感じがするし、安心して食べられそうな感じがしませんか？

もちろん、七夕は食べ物ではないので、手作りといっても別においしいわけではないけれど、とにかく、阿佐谷七夕の最大の魅力は手作りにあります。

なにが手作りかといえば、まず、張りぼてが手作りです。どこぞの問屋街で、できあいの張りぼてを見つろくってわけじゃなくて、各商店の人達がひとつひとつこしらえるのですから、とにかく個性あふれています。

張りぼてのモチーフとなるのは、子供に人気のアニメキャラクターやその年に話題になったCMや映画のキャラクターなどなど。そっくりにできた見事な張りぼてもありますが、「あれはいい……？」と制作意図が不明なものもたまにあります。バラエティー豊かなモチーフもさることながら、バリエーションに富んだでき栄えも、「手作り」ならではの見所となっているようです。

だいたい、七夕に張りぼてっていうのも、考えてみれば独創的じゃないですか。吹き流しやくす玉は分かるけど、なんでまた張りぼてが主役なのか？ この不可思議さも、ま

た阿佐谷七夕祭りの醍醐味といえそうです。

■模擬店もいい味出してます！



アーケードの天井に吊された張りぼてに負けず劣らず人目を引くのが、店先に並ぶ模擬店です。縁日などに出かけると、綿菓子やら焼きそばやらヨーヨーすくいやら、露天商の方たちがさまざまな店を出していますが、阿佐谷七夕の場合は、すべてが商店街の人たちが出している模擬店、いわゆる「手作り」なのです。

自家製フランクフルトを特別販売するお肉屋さんもあるし、洋品店のご主人がせっせと焼きそばを作るなど、本業とはまるで関係ないものを販売する店もあります。

いずれにしても、外部の人ではなく、商店街の人達がやっている模擬店であることがミソ。阿佐谷の七夕でしか味わえない味があるのはもちろん、全体的にアットホームな雰囲気の流れているのも、「手作り」がなせる技といえるでしょう。

■七夕なのに8月に開催するワケ

ところで、仙台や平塚をはじめ、七夕まつりは7月の初旬に行っている所が多いのに、どうして阿佐谷は8月なのでしょう？

商店街が主催するイベントだけに、8月開催は、「商い」と密接に関係しているようです。

阿佐谷七夕まつりが初めて開催されたのは昭和29年、今から53年前のこと。当時は、現在のように冷暖房設備が整っていなかったため、寒さが厳しい2月と暑い盛りの8月は、みんな家にこもりがちになっていました。出不

精になる心情は分かるけど、人が来なければ商売になりません。

なんとかお客様に来てほしいと頭を悩ませていた阿佐谷パールセンターの店主さんたちは、ヒントを求めて日本各地の街を訪ね歩いたとか。そして、各地のいろいろな催しを見学した結果、「涼しげな七夕まつりをやろう」ということになったのだそうです。



七夕ですから、本来は7月に開催したいところ。でも、7月はもともとのお中元の売り出しで賑わっていたので、お中元商戦が落ち着いた8月初旬の開催となったわけです。余談になりますが、商店街における2月と8月の集客対策は、「二八（につばち）対策」と呼ばれていたそうです。寒さ暑さが人為的にしのげるようになった昨今では、もはや死語になりつつあるのでしょうか……。

■車の通らないパールセンターだからできた！

昔はパールセンターでも車が走っていたそうですが、昭和27年に中杉通りが開通したことをきっかけに、昭和28年、都内で初めて歩行者専用道路の指定を受けたということです。阿佐谷七夕まつりは、中杉通りが開通した恩恵といってもいいでしょう。

参考に 雑学コーナー／あの広告を追え！で昭和初期の阿佐ヶ谷が紹介されています。

(文：加賀なつみ)



七夕まつりの舞台裏

七夕まつり50年以上の歴史の中には、さまざまなエピソードがあったはず。困ったこと、悩んだこと、笑ったこと、うれしかったこと……。華やかなイベントの陰に隠れた裏話にスポットを当ててみましょう。

■雨に泣かされた開催当初



▲昭和38年の七夕まつり

今でこそパールセンターは雨が降る日も傘をささずに歩くことができますが、かつてはアーケードではなく、雨も降り注げば、強い陽射しも降り注いでいました。

もちろん七夕まつり開催中も、天候は有無を言いませんから、雨は容赦なく降りました。見物に来たお客様は傘をさせばすみますが、飾り物は傘をさすことができません。しかも、飾り物は紙で作られていたため、雨水でぐしゃぐしゃに濡れて壊れてしまい、雨が上がつてからも、たっぷり吸い込んだ雨水をポタポタ垂らす始末。

さらに悪いことに、当時は水に溶けやすい染料が多かったせいか、色水がしたたり落ち、お客様の衣服を汚してしまうこともあったそうです。

写真：昭和38年当時の七夕まつり パールセンターに、まだ屋根はなかった。この写真は小川眼鏡店の故小川智代吉氏が、当時まだ珍しかったカラーポジフィルムで撮影したものです。

■アーケードは救世主!?

せっかく足を運んでくれたお客様に、迷惑はかけたくない。商店街の人々の強い思いが結実し、昭和37年に400メートルのアーケードが完成しました。

屋根があれば、雨が降っても、お客様に迷惑をかけることもなくなります。紙を材料に作った七夕飾りも、雨に濡れなくてすみます。万事めでたし、と思ったのですが、なんとアーケードになったことで、防火に関する規制が強化されてしまい、燃えやすい紙素材は

使えなくなっていました。

燃えにくいビニール素材を使ったり、紙で作ったものでも、最後に不燃塗料で加工を施すので、結果的に雨に濡れても大丈夫な張り子を作ることになってしまったとのこと。ちょっぴり皮肉な話ですね。



▲アーケードができた

それはともかく、七夕のために作られたアーケードのお陰で、パールセンターは早くから、一年中傘いらずの商店街になったのです。ちなみに、アーケードは平成11年に増改築を行い、今では全長600メートルに及んでいます。

■どこで誰が作るの?

ところで、あの大きな張りぼては誰がどこでどのように作るのでしょうか?

手作りがモットーなので、作り手は、もちろん各商店の方々です。「どこで」は、各商店によって異なり、裏の駐車場で作るという人もいれば、店の横の路地で作るという人もいるし、家の中で作るという人もいます。

現在のアーケードができてからは、商店を閉めた後、店先で作り、作業が終わるとアーケードの上につるし上げておくという画期的な方法が登場しました。しかし、かつては作る

場所、保管する場所を確保するだけでも一苦労だったとか。

中には、部屋でこつこつ大作を仕上げたものの、いざ出そうと思ったら、大きすぎて運び出せず、やむなく分解して外へ出した、なんてことも珍しくなかったそうです。



写真：木を芯にし、針金で骨組みをつくり、おおまかな形を作る。

■受け継がれる張りぼて作りの知恵

開催当初は誰も作り方を知らなかったの、張りぼて作りをしている地方都市に習いに行ったり、指導者を呼んだりなどして作っていたそうです。

また、竹で作っていた骨組みも針金に変えるなど、作り方は時代とともに変化しているようです。しかし、その時々で、先輩が後輩に指導したり、仲間同士で知恵を出し合っている方法を編み出すなど、制作方法は代々共有され受け継がれているということです。

張りぼて制作のワザは変わっても、商店街の仲間でお互いに協力して作るという姿勢は、きっとこれからも受け継がれていくことでしょう。

(文：加賀なつみ)



写真：制作過程の張りぼては、アーケードに吊して保管する場合も。張りぼての完成までには、お互いの協力がかかせない。



七夕まつりの余韻

まつりの後はえてしてさみしいもの。

でも主催者であるパールセンターの人達は、まつりが終わった後も、なにかと忙しいそう。

張りぼての片づけ、竹の再利用、「ちびっ子絵画展」など、
まつりに付随するあれこれを覗いてみましょう。

■まつり終了後の張りぼての行方は？

七夕まつりを華やかに賑わせ、見物客の目を楽しませてくれた張りぼては、まつりが終わったあと、どうになってしまうのでしょうか？

丹誠込めて作った代物だけに捨て難いのはやまやま。でも、なにしろ大きいので記念にとっておくというわけにもいきません。大抵は、一か所に集めてゴミ処理業者に運んでもらうことになりますが、たまに、養護施設や保育園・幼稚園などにもらわれていくという恵まれた張りぼてもあるそうです。

お気に入りの張りぼてを見つけ、どうしても欲しくなった方は、ために七夕祭り実行委員会にかけあってみては……。ただし、置く場所の確保だけは忘れずに！



▲はい、チーズ。

写真：丹誠込めて作った張りぼてと記念撮影。ゴミ処理するのは実に忍びない…。

■エコロジーな竹炭教室

張りぼてのみならず、竹も大量に使うので、まつりが終わると大量の竹が残ってしまいます。かつては、各商店で引き取り生け垣に使ったり、竹屋さんに引き取ってもらっていましたが、なんともったいないこと、と思いきや、数年前から、再利用され、竹炭に生まれ変わっているのだそうです！

2002年10月、杉並区環境博覧会の1イベントとして行われた竹炭教室に竹を提供したのがきっかけで、現在は区から引き継ぐかたちでパールセンターが実施。パールセンター近隣の小学校を対象に希望者をつのり、夏休みに1泊2日で自然豊かな檜原村に出かけ、竹炭作り体験学習を行っているとのこと。

七夕の飾りだった竹が、子どもたちの体験学習の教材となり、竹炭として生まれ変わる……。七夕まつりは姿を変え、さまざまところへ波及していくのですね。

なお、この竹炭教室で作られた炭は、七夕開催時にも販売されているそうなので、興味のある方は、次回の七夕まつりでぜひ探してみてください。



▲竹炭を作っています

写真上：子供にとって竹を切るのは大変な作業なので、商店街の人達が事前に檜原村に向き下準備する。
写真下：七夕の飾りに使われた竹が窯に入り、竹炭となって再利用される。

■1か月後が楽しみ!の「ちびっ子絵画展」



竹炭教室は、近隣の小学校を対象としたものですが、「ちびっ子絵画展」ならご近所でもなくても、杉並区民でなくても、5歳から小学6年生のお子様であれば誰でも参加できます。

七夕まつり開催中に警備本部で配布している指定の用紙をもらい、七夕まつりの思い出を心のままに描きましょう。応募作品は一枚残らずボードに貼られ、9月に行われる阿佐谷神明宮の祭例の際、パールセンターの各所に展示されます。しめ切は8月31日なので、ゆっくりじっくり挑戦してください！

■張りぼてを「出展したい!」という方へ

張りぼては、数多くいろいろあった方が楽しいにきまっています。パールセンターの商店街の方々も、作り手が増えれば心強いことでしょう。

ただし、パールセンターで培ってきた気概や了解事項があるので、張りぼてをただ持ってきて飾るという形での参加は受け付けていないようです。

50年の歴史を持つ伝統ある行事なので、出展を希望される方には、6月初旬に行われる準備会から出席し、商店街の人々と気持ちをひとつにして、七夕に向かっていくことが求められるとのこと。まずは、阿佐谷商店街振興組合に連絡してみるといいでしょう。

■Special Thanks

小川勝久さん(阿佐谷商店街振興組合 相談役)



まつりで使った竹を教材に竹炭教室までやっつけよう。こんな商店街はパールセンター以外にないんじゃないかと思いますが、子供たちの間に、ものを大事にする気持ちと、地元を愛する心が育まれていくことを願い、これからも続けていきたいと思っています。

パールセンターもだいたいテナントが増えましたが、同じアーケードに軒を連ねているんだから、今後もみんなで協力し、七夕を盛り上げていきたいですね。

柏原良光さん(阿佐谷商店街振興組合 相談役)



仙台や平塚の七夕は、市が主催しているけれど、阿佐谷の場合はあくまで商店街が主催しているまつり。お金をかければそれだけ立派になるかもしれないけれど、阿佐谷の七夕には、お金では決して買えない「手作り」のよさがあると思います。50年以上無事故でやってきたのも、考えてみればすごいこと。これからも一に安全、二に安全で、みなさんが安心して楽しめるまつりにしていきたいと思っています。

(文：加賀なつみ)



2006 年七夕レポート

■今年はどうな七夕!?

今年も8/5(土)から七夕祭りが開催。
より早く今年の様子をお伝えるために、開催初日の早朝にJR阿佐ヶ谷駅から青梅街道までの商店街を散歩してみました。



小さなお子さんがいる場合は、人出の少ない午前中に七夕飾りを見せてあげてはどうでしょうか。祭りならではのにぎやかさはありませんが、逆に本来の七夕を楽しめるかもしれません。ぜひみなさん、七夕飾りでにぎやか、楽しい商店街を楽しんでください。

■流行と、定番の色とりどりの七夕飾り

夏に公開されたばかりの映画の登場キャラクターは、ある意味で毎年定番。また店の看板商品を飾り(?)にする店舗もあります。

お肉屋さんの「あの肉」は、若者の間でもネットで話題になりましたね。



■裏方も大変。ごみの分別、安全管理

2006年は、8月5日の早朝5時ころ七夕飾りを見にいきましたが、意外に感じたのは、警備が厳重なことでした。100メートルも空けずに警備員さんを見かけました。

心ないいたずらや事故にそなえ、徹夜で警備頂いているそうです。

また、昨年あたりからは、ボランティアや中高生の協力も得て、ゴミの分別などをきちんとできるよう心がけているそうです。

阿佐ヶ谷は駐輪スペースが少なく日頃から問題に感じている住人は多いようですが、今回は祭りの少し前から徹底した駐輪対策、配慮もされているようです。





2007年度張りぼて製作 全部見せます

■この七夕はまちがいなく 杉並区の「無形文化財」に値する



■50余年の歴史が職人村を作り上げた

(右上)和菓子屋の福吉さんはムーミンに挑戦。これから色を塗ります。

(左上)「あの肉」につづき今年は「その肉」で勝負の吉沢肉店。時短のため粘着シートで紙張り。

「冷蔵庫の掃除もしなきゃならないから時間掛けられないんだよ。」 (7/31 4日前)

(左下)中村生花店さん。複雑な形状を得意とする息子さんは張りぼて歴18年。今年はエバンゲリオンの超大作。図面は書かず手に持った人形を見ながら直接作る。パーツごとに作って組んでみて、形のバランスが悪くても問題ないない気にしない。 (7/30 9時半頃 製作10日目)

(右下)昔はもっと大きいものを作ってたけど、今は年取ってきたから手足のパーツをだんだん減らして顔だけです。という原田靴店さんはけろっぴのサンダルを見ながらの製作。目玉を色紙で貼ったのはうちが最初なんですよ。



■シャッターを閉めた9時頃から次々とブルーシートが店開き

(左上)毎年超大作を作る美容室NEO PHILIA。映画「レミーのおいしいレストラン」のねずみは杉並区長賞。製作期間は約半月。微妙な色彩まで表現 (8/1 9時半頃)

(左下)2店舗合作の超大作は今年の金賞受賞作品。やはり作者に似るようですね。 (7/30 9時頃)

(右上)映画「シュレック」のパンフレット片手にロバの絵をマーカーでじかに描いていく様は風呂屋の壁画並みの仕事の速さ。

(右下)しまじろうの尻尾のしましまは茶色い紙を細く切って巻きつける。花麺さんは20回目の参加 (7/31 9時半頃)



阿佐ヶ谷の七夕名物「巨大張りぼて飾り」は商店主が一人一人作っている。どの町にも名人の1人や2人いるのは普通だが、この町は商店街のみんなが一定以上のレベルの作品を作っている。これは奇跡と言っても過言でない。

■保管は天井に



アーケードの天井にはあらかじめ七夕用の取付金具が設置されている。あらかじめ飾りつけの配置を決定した上で、祭りの3週間前に滑車つきワイヤーとロープを一斉に設置した。あとはそのロープに飾りをくくりつけて手繰ればいいのだ。

■作り方のコツ大公開



(左)テーマが決まったら方眼紙で1/10のサイズで設計図を描きましょう。コツは遠くから作品を見上げることを想定してインパクトある誇張してみる。シュレックとなんだかそっくりのタキグチスポーツ社長兼プレスページのマスター (7/19 16日前)

(中)心棒になる角材を十字に組む。作品を吊るすバランスを考えて角材にあなを開けて十字に針金を通し輪を作る。バーバパパのぶどうの木 (7/19 16日前)

(右)他の心棒の先にも針金を十字にかける。ここから縦方向の針金を巻きつけるのだ。 (7/19 16日前)

(左)心棒から伸ばした縦針金に横針金を巻きつけ、細く切ったガムテープで固定。ここまで美しい球体には脱帽。激しい夕立にも関わらず作業は続く。洋酒のKIKUYAさん

(7/29 6日前)

(右上)ふすまのりを茶紙に塗り針金に巻きつけるように貼り付けていく。貼り重ねる際、押さえすぎると乾いたときたるんでしまうので注意。和食味彩坊さん。

(右下)「七夕は第1回目から作ってます」と言う大佛堂さんのお母さんは商店街の歴史そのもの。「糊貼りくらいなら手伝えますからね」

(7/31 9時半頃)



(左上)まずは針金でのっぺらぼうを作り鼻や耳はあとから針金を足して本体にくくりつけてから紙を貼る。タキグチさんのシュレック親子。

(7/28 10時頃 7日前)

(右上)紙を貼り終わったらいいよ目鼻を書き込んでいく。タツインテリアさん。アンパンマンのドキンちゃんの下書きは慎重に。

(7/28 10時頃 7日前)

(左下)塗装は主に水性ペンキを使用する。乾くと強度が増し、耐火性もある。KIKUYAさん

(7/28 10時頃 7日前)

(右下)ケーキ屋のシンボルのバナナを持ったバーバパパ。今日中にピンクを塗ってしまいたい焦るものの夜が明けるとあとから塗った部分と色が合わず、全面塗りなおしの憂き目に。

(7/31 8時半頃)



■がんばれ！バイト君



張りぼてがどのように作られているか知りたくて私は2週間に渡り製作現場を見て回った。

そこで目に留まったのはバイト君たちの活躍だ。

(左上)食品スーパーユータカラヤのの兄貴こと塩塚君は今年2年目の大学2年生。店では頼りになる存在。でも昨日からあまり進んでない気がするが大丈夫か？ (7/31 10時頃)

(右上)ユータカラヤの小沢さんと三澤君。「バイトに来たら張りぼてまで作るなんてびっくりだよ。」という三澤君は現在定時制高校の4年生。「来年はどーも君作ろう」なんてしゃべってるのを聞き逃しませんよ。(7/31 10時頃)

(左中)ドトールコーヒーの制服を着たゴンタ君の企画制作担当は美大の4年生の犬丸君。カップのマーク入れにもこだわります。(8/1 8時半頃)

(右中)コーヒーカップの肉厚感を出すために針金からこだわります。右の浜田さんは地元高円寺っ子。阿波おどりも出ています。(7/30 8時頃)

(左下)おだんごやのお兄さんも作業の合間にドトールのバイト君たちにアドバイス。黒地にピンクの文字のTシャツ姿の増田さんは徳島県出身の大学生。「こっちに来るまで東京で阿波おどりやってるなんて知りませんでしたよ。」

(右下)犬丸君(左)とめがね君の小柳君(右)

(左)この日は校舎の鍵が無く電源が取れないため、テントの照明が使えず。校庭の明かりだけでの仕上げ作業。
(中)ゴンタ君のヘアーカットを担当するのは兄玉君、現在大学生。好きな道を進めればいいよね。(8/1 9時頃)
(右)和食屋の味彩坊のバイト君は共に高校2年生、店のお姉さんの叱咤激励を受けるもちょっぴりのんびりペース。でも仕事より張りぼて作りのほうが楽しいって。



■七夕が取り持つ地域のコミュニケーション



この時期、閉店後の商店街はまるで文化祭前の学校の放課後のよう。

商売は抜きでアーケードに集まりみんな一つの目標に向かって作業しているからだろう。

道行く人も話しかけてくる。作る側はたいへんな一方、何かほのぼのした時間でもある。

(上)ドトールコーヒーに1日3回通常連客さんもお手伝い。磯田清治さんは60歳の日曜画家。仕事で転勤を繰り返してたけど若い頃住んでいた阿佐ヶ谷に戻ってきた。「これからはずっと阿佐ヶ谷に住みますよ。」 (7/28 10時頃 7日前)

(中)洋品屋兼画廊喫茶スマイルの浜野さん(左)はアートな作品で銀賞獲得。お隣の中村さん(右)は現在テナントに貸しているため現在張りぼては作ってない。「でも、この時期になると手伝いたくてうずうずするんですよ。」

(下)今年で10回目のダイソーは店長さん一家揃って作業。ウロコを1枚ずつ作る気合の入れよう。「はじめの頃はわからないからダンボールで作ってたのですがだんだん見よう見まねで覚えまして。今年のテーマは未来のメダカかな？」

「昔は作業中通りがかりの人によく声をかけられたものですが、今年はずっとより人が通りませんねえ。」 (7/28 10時頃 7日前)

■中学校での試み

パールセンター商店街に面している阿佐ヶ谷中学校は校庭の一角を張りぼて作りに開放している。その12m上空でも中学生が張りぼて作りをしていた。

中学チームのテーマは「エコマーク」1年生の浅賀さくらさんが発案し仲間のアドバイスで考えた。

例年阿佐ヶ谷中学はお茶の大和園の山岸さんが製作指導しているが、今年はボランティアで美大生のお姉さんたちが製作を手伝った。生徒は一年生有志たち。今年の担当の先生は理科の塩沢先生「中学生は行事が忙しくて1～2年合同ではうまく時間が取れないので毎年1年生でやってるんです。今回大学生の方に手伝っていただき、生徒たちにとっても貴重な経験が出来たと思います。今後は張りぼてに限らず総合学習の時間を活用し、いろんな分野で大学生の先輩たちから話しを聞く機会を設けられればいいと思います。」



■地域の子どもたちへ広がる輪

ここ数年来、実は商店街の張りぼて出展が減っているのが実情だ。高齢化とテナント化が加速してるのだ。

それを埋めるように最近では地元の小学校をはじめ児童館、保育園なども出展している。商店街の指導の下、PTAの協力で年々そのレベルは上がってます。

現在、杉並第六小学校と杉並第七小学校、阿佐ヶ谷中学校、杉並高校の4校が出展しています。



■飾り付けが始まる

(左上)阿佐ヶ谷駅側のアーケード入り口に早くもくすだま飾りがとりつけられた。

(7/30 10時頃)

(右上)くす玉やちょうちんなどの飾りつけがはじまる。かざりつけも全部商店街の人たちがやる

(7/31)

(左下)小物が飾り終わると今度は大物の飾りつけ。商店主もテナントさんもバイト君もみんなで協力

(8/1 9時頃)

(右下)ユータカラヤのマンガース君少しは進んできたね。でも先は長いなあ。

(8/1 9時半頃)



■アーケード一斉に飾り付け(2日前)

(左上)8月2日(木)8時、千葉県銚子より160本の青竹が到着。これから商店街全体が一斉に飾りつけ作業が始まる。

(右上)短冊やひらひらがたくさん取り付けけた笹飾りは立てるものたいへん。

(左下)アーケードのない商店街も順繰りに飾りつけ作業が始まった。

(右下)商店街の構成員である以上、僕たちだってお手伝い。



■ところでユータカラヤのマンガース君は？



■そしてみんなみんないい笑顔

飾り付けがほぼ完成した9時半頃、飾りを眺めながら一息つく姿はとても穏やかで和やかであった。

大ベテランの世話役さんもテナントのバイト君も一つの目標に向かってやり遂げるなかで、きっとたくさんの時間と気持ちを共有したのだろう。私はこの2枚の瞬間をシャッターで捉えた時、(写真の出来はさておき)やった！2週間通った甲斐があったと思った。

阿佐ヶ谷七夕祭がこの先100年続くことを私は願ってやまない。



張りぼて作りに興味をもった貴方、ぜひ来年は、七月下旬にアーケードに足を運んでみてください。

気に入った作品の前で声を掛けてみてください。

まずは私たちと一緒に作業してみませんか？

(By 蒲重かまぼこ店 大田さん)

(文：藤山三波)